

令和7年度使用
中学校用教科用図書
採択参考資料

美 術

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
9 開隆堂	美術 009-72・009-82
38 光村	美術 038-72・038-73・038-82
116 日文	美術 116-72・116-83・116-84

美 術

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

9 開隆堂 38 光村 116 日文

2 調査研究の観点

- (1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 個性を生かして活動することができるよう配慮されており、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 「A表現」と「B鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 表記や表現が適切であり、各ページの資料や紙面のデザイン等が学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

- (1) 概括的な調査研究…………… 観点(1)(3)(4)
 - ① 領域別のページ構成とデジタルコンテンツにつながる二次元コードの数
 - ② 領域別の題材数
 - ③ 学年のまとめりごとの題材数
 - ④ 掲載作品の構成
- (2) 学習指導要領に関すること…………… 観点(1)
- (3) 生徒の実態や地域の実情に関すること…………… 観点(2)
- (4) 内容の構成・配列に関すること…………… 観点(3)
- (5) 表記や表現、資料等に関すること…………… 観点(4)

1 概括的な調査研究

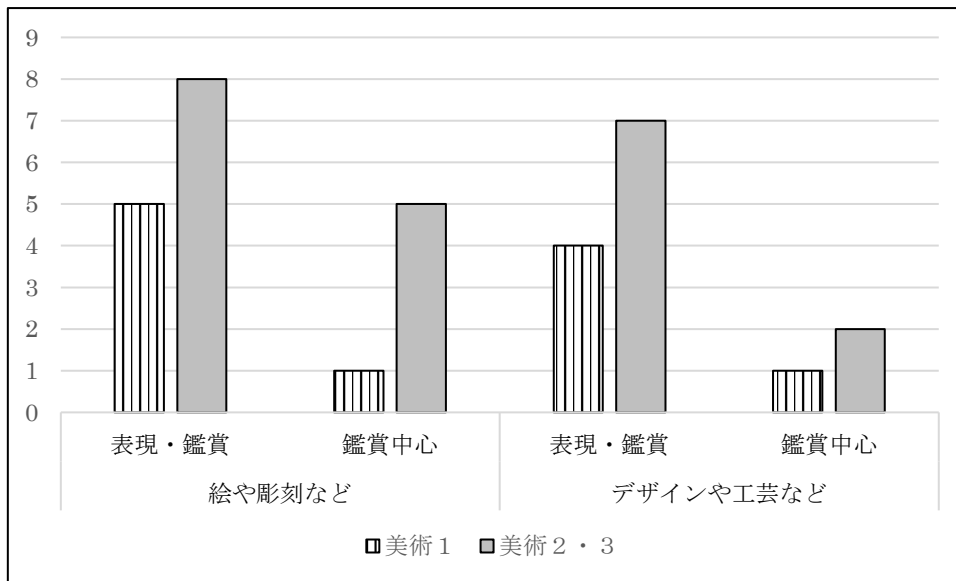
(1) 領域別のページ構成とデジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		資料	その他 表紙含む	合計	二次元 コード
	表現・鑑賞	鑑賞中心	表現・鑑賞	鑑賞中心				
美術1	16	10	16	4	18	8	72	16
美術2・3	32	18	28	6	30	14	128	25
合計	48	28	44	10	48	22	200	41

(2) 領域別の題材数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		合計
	表現・鑑賞	鑑賞中心	表現・鑑賞	鑑賞中心	
美術1	5	1	4	1	11
美術2・3	8	5	7	2	22
合計	13	6	11	3	33

(3) 学年のまとめりごとの題材数



(4) 掲載作品の構成

	生徒作品	作者名記載作品		文化・ 文化財	デザイン ・工芸	その他	合計
		日本	世界				
美術1	55	40	24	1	27	2	149
美術2・3	109	76	82	40	22	6	335
合計	164	116	106	41	49	8	484

2 学習指導要領に関すること

- 各題材では、資質・能力の3つの柱に基づいた「学習の目標」が示されており、活動全体を通して3つの資質・能力を意識して学習することができるようになっている。
- 巻頭に、図画工作科と美術科とのつながりや美術科を学ぶ意義について、生徒向けの言葉で示されている。また、美術科の学びと生活との関連について紹介されている。
- 巻末に、技法や色彩、鑑賞につながる資料「学びの資料」があり、3年間を通じて、色彩に関する知識や様々な技法が学習できるように構成されている。
- 第1学年が3年間の見通しを持って学習に取り組めるように、美術1において、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」のそれぞれの分野で学習する内容について、紹介するページが設定されている。

3 生徒の実態や地域の実情に関すること

- 生徒の活動の様子や作品が示されている。また、「作者のことば」で作者の作品への思いが紹介されている。
- 伝統文化・伝統工芸等について、生徒が実際に伝統技法を使った題材で活動している事例が紹介されている。
- 生徒の実態や学校の実情に応じて活動を選択できるように、複数の実践例を紹介した題材が掲載されている。
- 題材に応じて、注意点がマークで示されており、用具を使用する際の安全面での配慮事項が掲載されている。

4 内容の構成・配列に関すること

- 題材が「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の2つに分類され、更にそれぞれが「表現と鑑賞の題材」と「鑑賞中心の題材」に分けて示されている。
- 日本及び世界の美術文化の多様性に目を向けさせるために、日本及び諸外国の作品が取り上げられている。
- 作品の細部まで観察できるように原寸大の図版、作品の一部を拡大した図版が掲載されており、鑑賞の手立てや生徒の表現活動につながる内容が紹介されている。
- 国際理解について考える機会となるよう、諸外国の生徒作品が掲載されている。

5 表記や表現、資料等に関すること

- 生徒が活動する様子やその表情が分かる写真が使用されている。
- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 題材のリード文に具体的な活動の方向性が示されている。
- 内容に関連する美術用語の解説が、「美術の用語」のマークとともに掲載されている。
- 表紙には、質感や筆跡を再現した立体的な加工が施された作品が掲載されている。
- 教科書の判型は、A4変型判が使用されている。

1 概括的な調査研究

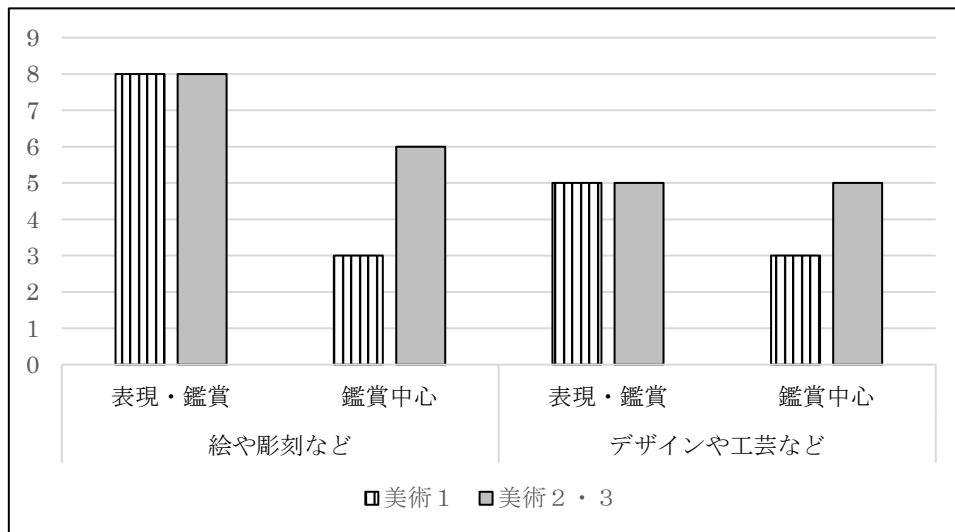
(1) 領域別のページ構成とデジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		資料	その他 表紙含む	合計	二次元 コード
	表現・鑑賞	鑑賞中心	表現・鑑賞	鑑賞中心				
美術1	18	12	12	6	4	18	70	32
美術1資料	0	0	0	0	34	2	36	40
美術2・3	30	30	14	10	14	10	108	61
合計	48	42	26	16	52	30	214	133

(2) 領域別の題材数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		合計
	表現・鑑賞	鑑賞中心	表現・鑑賞	鑑賞中心	
美術1	8	3	5	3	19
美術1資料	0	0	0	0	0
美術2・3	8	6	5	5	24
合計	16	9	10	8	43

(3) 学年のまとめりごとの題材数



※美術1資料は題材数0のため、グラフから除く。

(4) 掲載作品の構成

	生徒作品	作者名記載作品		文化・ 文化財	デザイン ・工芸	その他	合計
		日本	世界				
美術1	31	71	37	5	32	2	178
美術1資料	17	3	2	0	1	2	25
美術2・3	39	92	64	23	78	1	297
合計	87	166	103	28	111	5	500

2 学習指導要領に関すること

- 各題材では、資質・能力の3つの柱に基づいた「目標」が示されており、活動全体を通して3つの資質・能力を意識して学習することができるようになっている。
- 巻頭に、図画工作科と美術科とのつながりや美術科を学ぶ意義について、生徒向けの言葉で示されている。また、美術科の学びと生活との関連について紹介されている。
- 巻末に、技法や色彩、鑑賞につながる資料「学習を支える資料」があり、3年間を通じて、色彩に関する知識や様々な技法が学習できるように構成されている。
- 第1学年が3年間の見通しを持って学習に取り組めるように、美術1において、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」のそれぞれの分野で学習する内容について、紹介するページが設定されている。

3 生徒の実態や地域の実情に関すること

- 生徒の活動の様子や作品が示されている。また、「作者の言葉」で作者の作品への思いが紹介されている。
- 伝統文化・伝統工芸等について、生徒が実際に伝統技法を使った題材で活動している事例が紹介されている。
- 生徒の実態や学校の実情に応じて活動を選択できるように、複数の実践例を紹介した題材が掲載されている。
- 題材に応じて、注意点がマークで示されており、用具を使用する際の安全面での配慮事項が掲載されている。

4 内容の構成・配列に関すること

- 題材が「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の2つに分類され、更にそれぞれが「表現や鑑賞の題材」と「鑑賞中心の題材」に分けて示されている。
- 日本及び世界の美術文化の多様性に目を向けさせるために、日本及び諸外国の作品が取り上げられている。
- 作品の細部まで観察できるように大きな図版や原寸大の図版、作品の一部を拡大した図版が掲載されており、鑑賞の手立てや生徒の表現活動につながる内容が紹介されている。
- 国際理解について考える機会となるよう、諸外国の生徒作品が掲載されている。

5 表記や表現、資料等に関すること

- 生徒が活動する様子やその表情が分かる写真が使用されている。
- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 題材のリード文に具体的な活動の方向性が示されている。
- 日本の絵画が掲載されている特集ページには、材質の違う紙が使われている。
- 「みんなの工夫」のページでは、中学生の主題や制作の様子について紹介されている。
- 教科書の判型は、1年及び2・3年はA4変型判、1年資料はA4判が使用されている。

1 概括的な調査研究

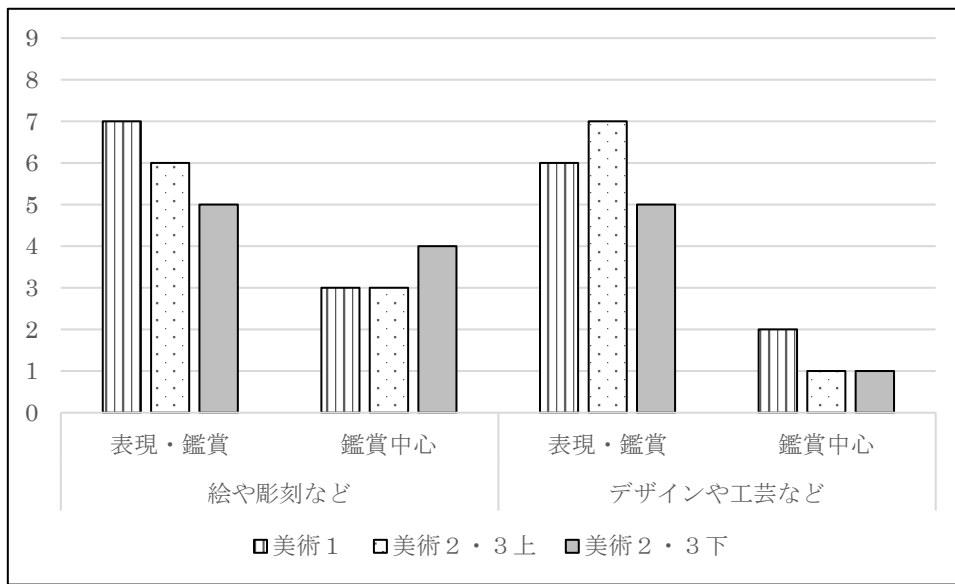
(1) 領域別のページ構成とデジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		資料	その他 表紙含む	合計	二次元 コード
	表現・鑑賞	鑑賞中心	表現・鑑賞	鑑賞中心				
美術1	14	10	14	4	19	15	76	40
美術2・3上	12	11	16	2	15	10	66	37
美術2・3下	15	12	10	2	13	10	62	28
合計	41	33	40	8	47	35	204	105

(2) 領域別の題材数

	絵や彫刻など		デザインや工芸など		合計
	表現・鑑賞	鑑賞中心	表現・鑑賞	鑑賞中心	
美術1	7	3	6	2	18
美術2・3上	6	3	7	1	17
美術2・3下	5	4	5	1	15
合計	18	10	18	4	50

(3) 学年のまとめりごとの題材数



(4) 掲載作品の構成

	生徒作品	作者名記載作品		文化・ 文化財	デザイン ・工芸	その他	合計
		日本	世界				
美術1	92	36	22	9	21	0	180
美術2・3上	62	82	43	16	9	2	214
美術2・3下	49	37	40	27	30	9	192
合計	203	155	105	52	60	11	586

2 学習指導要領に関すること

- 各題材では、資質・能力の3つの柱に基づいた「学びの目標」が示されており、活動全体を通して3つの資質・能力を意識して学習することができるようになっている。
- 巻頭に、図画工作科と美術科とのつながりや美術科を学ぶ意義について、生徒向けの言葉で示されている。また、美術科の学びと生活との関連について紹介されている。
- 巻末に、技法や色彩、鑑賞につながる「学びを支える資料」があり、3年間を通じて、色彩に関する知識や様々な技法が学習できるように構成されている。
- 第1学年が3年間の見通しを持って学習に取り組めるように、美術1において、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」のそれぞれの分野で学習する内容について、紹介するページが設定されている。

3 生徒の実態や地域の実情に関すること

- 生徒の活動の様子や作品が示されている。また、「作者の言葉」で作者の作品への思いが紹介されている。
- 伝統文化・伝統工芸等について、生徒が実際に伝統技法を使った題材で活動している事例が紹介されている。
- 生徒の実態や学校の実情に応じて活動を選択できるように、複数の実践例を紹介した題材が掲載されている。
- 題材に応じて、「注意しよう」が示されており、用具を使用する際の安全面での配慮事項が掲載されている。

4 内容の構成・配列に関すること

- 題材が「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の2つに分類され、更にそれぞれが「表現や鑑賞する活動の題材」と「鑑賞する活動を主とした題材」に分けて示されている。
- 日本及び世界の美術文化の多様性に目を向けさせるために、日本及び諸外国の作品が取り上げられている。
- 作品の細部まで観察できるように大きな図版や原寸大の図版、作品の一部を拡大した図版が掲載されており、鑑賞の手立てや生徒の表現活動につながる内容が紹介されている。
- 国際理解について考える機会となるよう、諸外国の生徒作品が掲載されている。

5 表記や表現、資料等に関すること

- 生徒が活動する様子やその表情が分かる写真が使用されている。
- 書体や色使い、レイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 題材のリード文に具体的な活動の方向性が示されている。
- 俵屋宗達の「風神雷神図屏風」と狩野永徳の「唐獅子図屏風」2つの屏風作品について、実際に折って立てた状態で鑑賞できるように造本されている。
- 短時間で取り組むことができる実践が「短時間でつくる」マークとともに示されている。
- 教科書の判型は、A4変型判が使用されている。

